

系碕神社新報

第246号

令和8年8月10日

系碕神社

三原市系碕8-10-1

TEL 0848-68-0102

発行 系碕神社事務局

責任編集 宮司 松本 圭

情報化という混沌

始めに、令和八年熊本地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

地震などの大きな災害が起こるたびに、事実と異なる噂話が流れます。これは昔からのことではありますが、近年は、誰でも手軽にスマホやパソコンから、インターネット経由で不特定多数に向けた情報が送受信できるシステム、いわゆる「SNS」を使って、さまざまな噂や「偽情報」が多数流されます。

口伝えで人から人に伝わっていく噂話と本質的な違いは無いでしょうが、SNSを使えば、より広範囲かつ急速に拡散されるので厄介ですね。

以下も「情報」というものについての個人の雑感です。

○陶芸家のことば

二十年前あまり前、成人の日の何日前に『美の夜のニュース番組で、或る高名な陶芸家の新成人に贈るメッセージが放送されました。大体、以下のようなお話だったと記憶しています。

「作陶に使う『ろくろ』には真芯があります。土を据えるの真芯でなければなりません。真芯に近いただけで真芯から外れていると、作品の形が歪んだり、遠心力で吹き飛ばされたりします。現代は情報化社会です。膨大な量の

ぎよくせきこんこう
玉 石 混 淆の情報が溢れてい

ます。真実のように見える情報であっても、本当に正しいとは限りません。そういった情報に振り回されていると、ろくろの真芯を外れた土のように吹き飛ばされることになりかねません。

ですから皆さんには、本物の情報はどれか、真芯はどこなのか、見極める眼を養って欲しいものです。」

この陶芸家のお名前は忘れてしまいました。お話に感銘を受けたので今でもよく覚えています。折しも、インターネットが急速に社会に広がっていった頃のことでした。



冒頭では災害時の噂や偽情報に触れましたが、平時でも、効果が疑わしい商品の広告、怪しい儲け話、出所不明の怪情報など、「真芯のようでそうでない」情報が、インターネットは勿論、テレビでさえ見かけられるのは

ご存知のとおりです。今の世の中、陶芸家の先生が仰っていたとおりになってしまいました。

○系碕神社に関わることに

①インターネット上に、誰でも編集に参加できる「Wikipedia」という無料の百科事典があります。私も利用しているのですが、誰でも編集できるぶん、記述内容の信憑性に問題があることもあるので、引用文献を直接読んでみるとか、別の情報源に当たって裏付けを取ったりする必要があります。

つい最近までWikipediaでは、系碕神社は「広島県で最も古い神社」と紹介されていました。確かに、奈良時代初め頃の天平元年(730)の創建ですから、広島県内のかかなり古い神社のうちの1社ではあります。しかし、推古天皇元年(603)創建の宮島の厳島神社を始め、広島県内には系碕神社よりも古い神社がいくつもあります。

従って、「県内有数の古社」と表現してあれば間違いではないのですが、「最も古い神社」という表現だと「一番古い神社」と誤解されかねず、むしろ、そう受け取る人が多いので

はないでしょうか。

ほんの少しのことばの違いではありませんが、だいた意味が違ってくるので、いずれ訂正しなければいけないと思います。最近どなたかが、「最も古い神社」という文言を削除して下さいました。

②神功皇后西征のみぎり、当地に上陸された際、出迎えた里長木梨真人が御調井の水を汲んで神功皇后に献上した、というのが当社のご社伝ですが、大正生まれ祖母から昔聞いた話では、「神功皇后が当地に上陸され、地面を槍で突いたら水が吹き出た」という言い伝えもあったのだそうです。



言い伝えの取り扱いが慎重にならねば

しかしこれは、日本各地に伝わる「弘法大師の井戸」の伝説と神功皇后伝承がゴッチャにな

・石麻呂に われ物申す 夏瘦せに 良しというものぞ むなぎ取り食せ (大伴家持)

ー 石麻呂さんに申し上げる。鰻は夏瘦せに良いと言いますよ。取ってお食べなさい。

・瘦す瘦すと 生けらばあらむを はたやはた むなぎを取ると 川に流るな (吉田連老、通称石麻呂)

ー ひどく瘦せてはいますが、生きているのだから良いじゃないですか。それより、万が一にも、鰻を取ろうと川に入って流されないで下さいよ。

※万葉集より。土用の丑の日は7月26日でしたが、暑い日はまだ続きます。鰻などいかがでしょう？

つてしまった疑いが拭えませんが、よって、この異説は糸碕神社のご社伝としては採り上げられていません。

各地に残る言い伝えについては、「そう伝わっている」という事実を尊重するにしても、時代を経るにつれて後世の創作が混入したり誇張された可能性も小さくありませんので、ずっと昔から伝わっていたオリジナルのお話なのか否かについては、慎重であるべきと思われます。

○同時通訳のお話

ここまで、情報というものの負の側面のお話になってしまいましたが、ビジネスに関わることからゴミの収集日に至るまで、私たちは諸々の情報を手がかりにして生活しているのですから、結局、「情報と上手く付き合う、怪しい話は疑う、ないしは受け流す」ということになるでしょうね。当たり前の結論で恐縮ですが、ここでこれまでとは別の観点から、「情報との付き合い方」に関わって、同時通訳についてお話をひとつ。外国の要人の演説やインタビュアの同時通訳の放送をテレビでご覧になると思います。外国語の発言を耳で聴いて正しく理解し、日本語に変換して口で発

するという一連の作業を瞬時に行うのですから、大変な緊張と集中力を必要とします。そのため、連続して同時通訳を行えるのは十五分から二十分が限界なのだそうです。ですから、長尺の演説などの場合、二人の人が交替で同時通訳をしていることにお気づきになることでしょうか。

では、限界を超えるとどうなるのか？本職の通訳の方のお話を聞いたことがあるのですが、限界を超えると、一時的に耳が聞こえなくなるのだそうです。

それ以上の情報の取り込みや分析を頭脳が拒絶してしまうわけで、同時通訳は、それくらい脳に大きな負担がかかるお仕事です。考えてみれば、私たちが日々の生活で行っている情報の取り込みや分析も、同時通訳ほどではないにせよ、確実に脳に負担をかけて疲労の原因になっているはずですよ。ですから、

体を休めるだけでなく、脳を休めるデジタル・デトックス(スマホやパソコンは見ない)とか、バケーション(何もしない)という休み方を意識する必要もあるな、と思う次第です。長々とつまらない話で恐縮です。ご奉仕等

○住吉神社例大祭

七月二十五日(土)、糸崎松西の住吉神社の例大祭が執り行われました。午後三時半から例大祭神事、四時半から神賑わいの住吉ビンゴが行われ、地元の方々で賑わいました。大祭ご齋行おめでとうございます。そして、準備、運営、後片付けにご協力下さいました皆様に感謝申し上げます。



今でこそ「地域の祭り」という色が強くなりましたが、思えば、こちらの住吉さんは糸崎の港全体の守り神でいらつしやいます。港と出入りする船の全てをお見守り下さっているのですから、小職としても誇らしい思いで神事にご奉仕させて頂きました。

○平和行進

今年も、七月二十九日(水)に三原地区労働センターの皆様が平和行進のリレー中継のため、七月三十日(木)に日本山妙法寺の方々が平和行進の途中、休憩のため当社に立ち寄られました。本当に暑い中、皆様お疲れさまでございました。



ありがとうございます

七月二十五日(土)、チャンチヤコさんが糸崎天神社の草刈りに来て下さいました。いつもありがとうございます。

○系碕神社総代会

八月二十三日(日)午後三時、役員の皆様、たびたびのことで申し訳ございませんが、ご参集のほど、お願い致します。

○系碕神社総代会

九月十三日(日)午後一時半、ご多用の所恐縮ですが、ご参集下さいますようお願い致します。

○お月見の会

九月二十五日(金)午後六時半、今年も実施します。雨天決行です。既にライブ演奏出演のお申し出を一件頂戴しました。出演希望の方は遠慮無くご連絡ください。

以上 糸碕神社宮司 松本圭